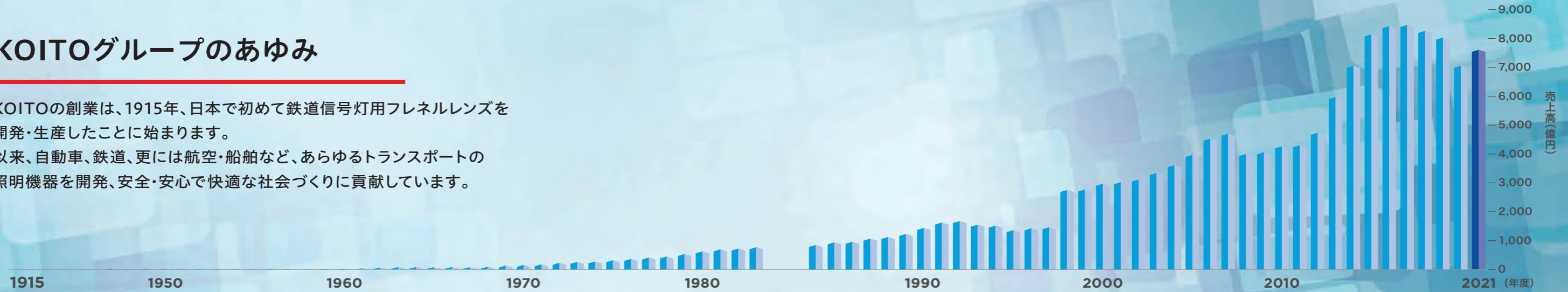


KOITOグループのあゆみ

KOITOの創業は、1915年、日本で初めて鉄道信号灯用フレネルレンズを開発・生産したことに始まります。

以来、自動車、鉄道、更には航空・船舶など、あらゆるトランスポートの照明機器を開発、安全・安心で快適な社会づくりに貢献しています。



創業期 1915~1945

- 1915 小糸源六郎商店創業(東京・京橋)
鉄道信号灯用フレネルレンズの販売開始
- 1930 小糸源六郎商店から小糸製作所に商号変更
- 1935 品川工場開設
- 1936 株式会社小糸製作所設立 資本金250万円
- 1943 静岡工場開設

戦後復興期・発展期 1946~1980

- 1949 株式を東京、大阪両証券取引所に上場
- 1955 商標 **KOITO** を制定
- 1961 本社を東京都港区芝高輪南町(現在の港区高輪)に移転
- 1968 米国イリノイ州にシカゴ事務所開設
- 1970 東京・港区に本社屋開設
- 1972 静岡県に航空電装・電子工場開設
- 1977 静岡県に榛原工場開設
- 1979 日本初異形ヘッドランプ生産・販売開始

拡大期 1981~1999

- 1981 世界初樹脂レンズヘッドランプ生産・販売開始
- 1983 米国イリノイ州にNorth American Lighting, Inc.(NAL)設立
- 1985 社は「着想と断行」制定
- 1986 タイにTHAI KOITO COMPANY LIMITED(タイ・コイト)設立
静岡県に相良工場開設
- 1988 台湾・大億交通工業製造股份有限公司(大億交通)へ資本参加
プロジェクタ・ヘッドランプ生産・販売開始
- 1990 静岡県に富士川工場開設
- 1992 静岡県に富士川工場開設
- 1996 英国・BRITAX VEGA LIMITED(BRITAX VEGA)へ資本参加
- 1997 静岡工場に技術センター開設
インドにINDIA JAPAN LIGHTING PRIVATE LIMITED(IJL)設立
- 1999 BRITAX VEGAをKoito Europe Limited(KEL)に社名変更

グローバルNo.1サプライヤーへ 2000~現在

- 2001 チェコにKoito Czech s.r.o.(KCZ)設立
- 2003 世界初スリプル式AFS生産・販売開始
- 2005 中国・福州大億灯具工業有限公司を子会社化
佐賀県に小糸九州株式会社設立
中国に広州小糸車灯有限公司設立
- 2010 インドネシアにPT. INDONESIA KOITO設立
- 2012 メキシコにNorth American Lighting Mexico, S.A. de C.V.設立
- 2014 中国に湖北小糸車灯有限公司設立
- 2015 創業100周年を迎える
- 2017 ブラジルにNAL do Brasil Indústria e Comércio de Componentes de Iluminação Ltda.設立
マレーシアにKOITO MALAYSIA SDN. BHD.設立
- 2019 イスラエル・BrightWay Vision Ltd.へ資本参加
- 2020 米国・Cepton Technologies, Inc.へ資本参加
KIホールディングス持株会社を吸収合併
小糸開発センター開設(愛知県)
- 2022 東京証券取引所の市場再編に伴いプライム市場へ移行

1915

小糸源六郎商店開設

創業者・小糸源六郎は自らが初の国産化に成功した(1912年)鉄道信号灯用フレネルレンズを販売するため、小糸製作所の源流となる小糸源六郎商店を東京市京橋区(現在の東京都中央区京橋)に創業した。



1957

オールガラスSBヘッドランプを生産・販売開始

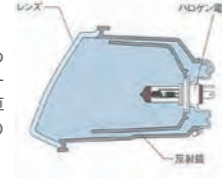
SSBヘッドランプよりも高光束なオールガラスSBヘッドランプの研究を1951年から進め、試作・改良を重ねた結果、1957年に製品化に成功し、同年10月よりトヨタ自動車工業(現・トヨタ自動車)をはじめ各社に納入を開始した。



1979

異形ヘッドランプを生産・販売開始

ヘッドランプのデザインを個々の車種に合わせたものとする、異形ヘッドランプ(SSBの一種)の開発に着手。1979年6月から日産自動車「スカイライン」、トヨタ自動車「クラウン」への搭載が始まった。



2007

世界初LEDヘッドランプを生産・販売開始

白色LEDをロービームの光源に採用し、GDHLやハロゲンヘッドランプに比べ、高光束による視認性向上、長寿命・省電力を実現したLEDヘッドランプを開発。2007年5月、世界初の市場投入として、トヨタ自動車「レクサスLS600h」に採用された。



1936

自動車照明器事業に進出

1932年軍用側車付二輪車「くろがね号」前照灯、1933年三輪トラック用前照灯などの納入経験を活かし、四輪車用前照灯の生産を開始。1936年に豊田自動織機製作所自動車部(現・トヨタ自動車)に「AA型」乗用車用前照灯を納入し、安全・安心で快適なクルマ社会に貢献する自動車照明器事業に進出した。



1975

ジェット噴射式ヘッドランプクリーナを生産・販売開始

ヘッドランプに付着した汚れを洗浄・除去するヘッドランプクリーナは安全確保の上でも重要であり、欧州では法制化の動きもあった。当社は、ジェット噴射式ヘッドランプクリーナを開発、1975年8月から輸出車に装着された。



1985

世界初オール樹脂製異形ヘッドランプを生産・販売開始

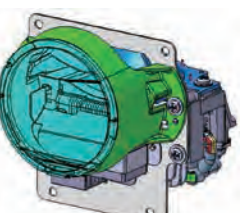
軽量化とデザイン性向上につながるランプの樹脂化に取り組み、1981年に樹脂レンズ、更に高い耐熱性と成形精度を持つBMCリフレクターを開発、1985年1月に世界初のオール樹脂製異形ヘッドランプがトヨタ自動車「ソアラ」に採用された。



2014

世界初LED Compact-バイファンクションを生産・販売開始

ハイビームとロービームを1つのLEDで切り替え、従来のランプユニットと比べて省電力・軽量化を低コストで実現した世界初のLED Compact-バイファンクションの生産・販売を開始。2014年11月、トヨタ自動車「プリウスα」をはじめ、さまざまな車種に採用されるなど、LEDヘッドランプの世界的な普及に貢献した。



1950

セミ・シールドビーム・ヘッドランプを開発

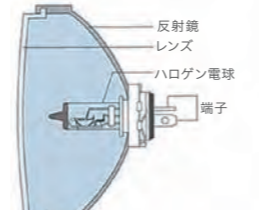
当時の米国製オールガラスシールドビーム(SB)の画期的な明るさに着目し、第1段階として、セミ・シールドビーム(SSB)・ヘッドランプの開発に取り組み、1950年8月に製品化に成功した。オールガラスSBが開発されるまで、国内の各種自動車に採用された。



1978

ハロゲンヘッドランプを生産・販売開始

高光束で防眩性能に優れたハロゲン電球は交通事故低減に寄与することもあり、1971年に欧州、1978年に米国で規格化された。当社は、1978年7月からSBヘッドランプ、SSBヘッドランプにハロゲン光源(当初は輸入品)を組み込んで生産を開始した。



1996

ディスチャージヘッドランプを生産・販売開始

ディスチャージヘッドランプ(GDHL)は電極間放電による発光を利用した光源で、光量の増加、長寿命、省エネなどに優れていた。クルマの燃費効率向上などに寄与する次世代ランプとしてこの開発に取り組み、バラストと呼ばれる制御回路とともに開発に成功、1996年の日産自動車「テラノ」、トヨタ自動車「マークII」に採用された。



2019

世界初ブレードスキャン®ADBを生産・販売開始

従来のADB(Adaptive Driving Beam)システムより細かな配光制御を可能とし、更なる安全性の向上が期待されるブレードスキャン®ADBを開発。2019年8月、世界初の市場投入として、トヨタ自動車「レクサスRX」に採用された。

